

「啄木を支えた人々」

石川啄木の生誕140年を記念して、盛岡や北海道、東京の暮らしの中で啄木に寄り添っていた人々や、生前の啄木を物心両面から支援し、没後も啄木を顕彰し続けた宮崎大四郎(郁雨)など、啄木を支えた人々の著書などの収蔵資料を展示します。

宮崎大四郎(郁雨) [1885年～1962年]

明治22年4歳で出生地の新潟から函館へ移住。
明治39年文芸結社 苜蓿社(ぼくしゅくしゃ)に参加し、翌40年函館に啄木を迎え入れる。
郁雨は最初から啄木の才能を見抜き、中央文壇で活躍させようと援助を続けた。後に啄木の妻・節子の妹と結婚し義理の弟となり、啄木没後も墓碑建立などに尽力した人物である。



宮崎大四郎(郁雨)
日本研造撮影



石川啄木

会 期

令和8年

9月12日(土) ▶ 11月8日(日)

お問合せ

函館市文学館

TEL:0138-22-9014

〈10月7日(水)～9日(金)は館内整理のため休館〉

主な展示資料

- 宮崎大四郎(郁雨)
 - ・『函館の砂－啄木の歌と私と－』宮崎郁雨著(昭和54年/洋々社)
 - ・自筆葉書「啄木歌碑の除幕式にあたって」
 - ・連載記事「石川啄木の思い出、大川の水の面(一)～(三)」(昭和6年/函館毎日新聞社)
- 金田一京助
 - ・『定本 石川啄木』(昭和21年/角川書店)
- 岡田健藏
 - ・『函館團創立六十年記念 岡田健藏先生論集』(昭和44年/図書裡会)
- 土岐善麿(哀果)
 - ・『啄木の遺志を継いだ土岐哀果』長浜功著(平成29年/社会評論社)
- 若山牧水
 - ・『若山牧水随筆集』(平成12年/講談社)



函館市文学館

函館市末広町22-5
TEL (0138) 22-9014

入館料 一般:300円
学 生(小学生～大学生):150円
※20名様以上の団体は2割引



【主催】公益財団法人函館市文化・スポーツ振興財団